

西区子育て支援課の実践報告

～子どもの発達が気になる段階での保護者支援～



西区保健福祉センター 子育て支援課

背景

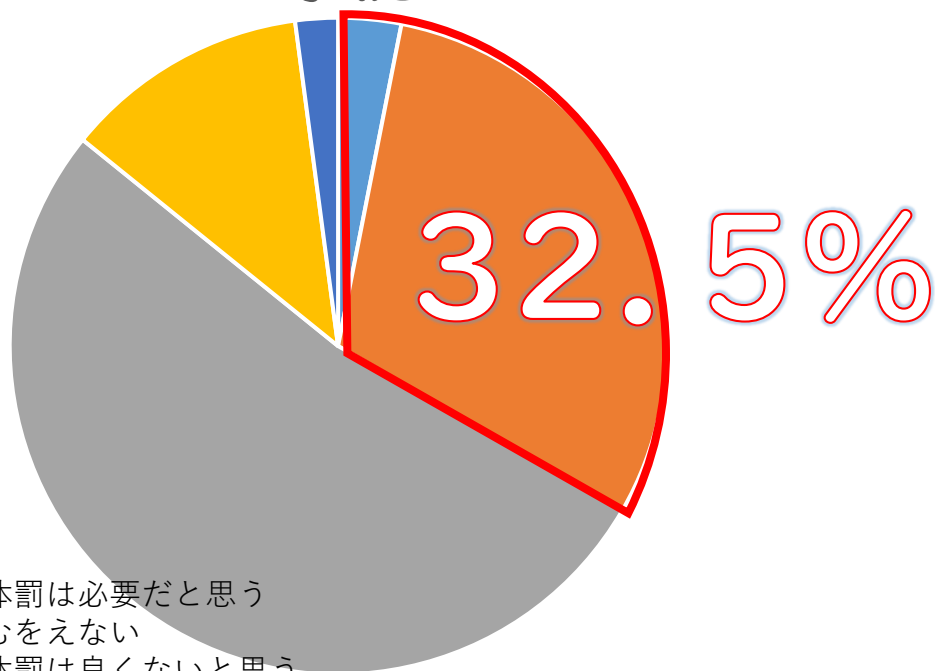
- 子育て家庭の減少
- 子育て家庭の孤立化
- 支援を要する子ども・子育て家庭の増加
(児童虐待相談件数・いじめ認知件数・発達障がい児の増加)



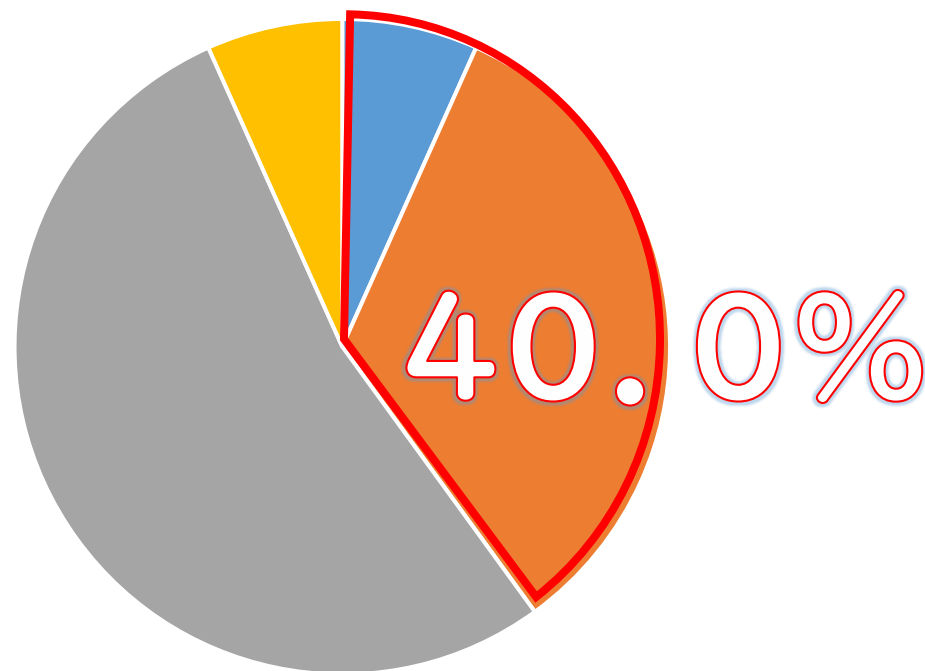
課題：子育て家庭への支援

家庭での子どもへのしつけに関し、体罰を容認する考えを持っている保護者の割合

母親



父親



福岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(平成30年度)より

体罰によらない子育ての啓発や養育スキル獲得の支援などが必要

不適切養育に至る要因

地域からの孤立

育児不安・ストレス

親の誤ったこども感

子の発達特性

など

区への対応ケースの一例

子の発達特性



育てにくさ
理解できない
ストレス



不適切な関わり

家庭の子育て力向上のための取組み

- ・ 子の発達特性を学ぶ機会
- ・ 保護者同士で悩みを共有する場



- ・ 知識・スキルの獲得
- ・ 悩みの共有



適切な関わり
子育て力の向上



ペアレント・プログラムの実施!

事業概要

事業名	Pすてっぷ・ぷちin西区
対象者	発達が気になる低年齢（3歳から小学校入学前まで）の子どもを持つ保護者
実施頻度	1時間×3回を年に2クール実施
実施場所	福岡市西市民センター、西保健所講堂
周知方法	市政だより・西区HP・西区FB・福岡市LINE・保育園や幼稚園等へチラシ配布・子育て支援課や地域保健福祉課で対応しているケースに個別案内。
申込方法	子育て支援課HP内の申し込みフォーム、電話
実施内容	講義、グループワーク、ホームワーク
過去の実績	【R3年度】第1回：5/11（3名参加）、6/22（4名参加）※6/1（コロナのため中止） 第2回：12/20（8名参加）、1/11（8名参加）、3/23（5名参加） 【R4年度】第1回：6/8（3名参加）、6/29（4名参加）、7/20（2名参加） 第2回：10/20（15名参加）、11/21（11名参加）、12月6日（9名参加）
協力機関	発達障がい者支援センター ゆうゆう

参加者の反応（アンケートより抜粋）

- ・子どもの細かい行動を見て少しずつ自己肯定感を高めていきたいと思いました。
- ・ハードルを下げてほめるということの具体的なことを知ることができました。
- ・同じような悩みを抱えている人がいて安心しました。
- ・グループワークで自分では気づかないことなど、色々なお話が聞けて参考になりました。

知識・スキルの獲得

特性に合わせた子育ての必要性の理解
実践的な練習を通し、スキルの獲得

地域のロールモデル

参加者が地域でロールモデルとなる
可能性

グループワークの効果



同じ悩みを持つ参加者同士で話すことによる孤立感の軽減、安心感の獲得
他メンバーの良い関わり方を知る等、参加者同士の学び合い
参加者同士が互いの良い点を認め合うことによる参加者の自己肯定感の向上

発達障がい支援

ゴール???

受診・診断

環境調整

家庭の子育て力向上

本事業の役割

周囲の大人の適切な対応

本人の自己理解



区で実施するメリット

参加がしやすい

- ・療育センターや専門機関に比べ精神的・物理的ハードルが低い。
- ・行政主催のため安心感がある。

情報が届きやすい

- ・様々な広報方法により広く市民に周知できる。
- ・相談対応時に直接情報を届けられる。

今後の課題

- 連続講座へのハードルの高さ
→ 連続講座への導入のための単発の講座を検討
- 継続した支援には繋がっていない
→ フォローアップ講座を検討
- 客観的な評価指標を用いた効果測定